

デジタルサイネージ仕様書

1 運用要件

(1) 運用業務内容

本システムの運用にあたっては、施設管理者(以下、管理者)が運用業務を行い、運用業務内容としては以下を実施する。

- (ア) デジタルサイネージの障害発生時には、所定の手続きに従い障害復旧までの管理を実施する。
- (イ) セキュリティインシデントが発生した場合、所定の手続きに従い対応を実施する。

(2) 運用機能内容

本システムの運用にあたっては以下の機能を有すること。

- (ア) 24時間365日で、サイネージ機器の死活監視に対応可能なこと。
- (イ) 24時間365日で、不正アクセス、攻撃等のセキュリティ監視に対応可能なこと。
- (ウ) 機器のバージョンアップ・チューニングが遠隔で実施できること

(3) 運用要件

管理者が運用を円滑に実施するために以下の要件を満たすこと。

- (ア) 管理者向け説明会として、本システムで構築を行ったデジタルサイネージについて、システムごとに操作説明及びマニュアル等の内容説明を行うこと。
- (イ) 災害時の運用手順について管理者へ十分に説明を行うこと。
- (ウ) 構築完了後、管理者が運用に関する支援を依頼した場合、別途契約が可能なこと。

2 保守要件

保守要件については、以下の要件を満たすこと。

(1) 基本要件

- (ア) 納入した機器についてリコールなどが発生した場合、受託者は管理者に報告の後、改修作業の調整を行うものとする。
- (イ) 検査合格後一年以内に設備及び機器等に瑕疵があることが判明した場合は、管理者からの要請に応じて受託者は、無償で設備及び機器等の修正、補修、交換等の処置を講じること。
- (ウ) 本案件で導入する機器は正規のメーカー保守を受けられる物品であること。

(2) 保守契約について

- (ア) 保守契約は、管理者と構築後の初年度から保守契約を結ぶことになる。本システム構築にて納品する機器類については、以下の保守要件を満たすこと。
- (イ) 平日(月～金)9時～17時(土日、祝日および休業日を除く)、本業務で導入する機器について一元的に故障受付できること。(コールセンター)
- (ウ) 予備機の発送元が国内であること。
- (エ) 障害内容により故障が想定される装置の対象機器メーカーへ内容をエスカレーションできること。
- (オ) 保守対応に関しては10km圏内のサービス拠点より保守要員が派遣できること。

(3) その他

- (ア) 本仕様書に記載以外の事項が発生した場合については別途、管理者と受託者にて協議することとする。

3 サイネージ機能仕様

以下にて、サイネージの基本機能仕様を記述する。

3.1 システム構成

サイネージのシステムは、各STBの稼働状態を一元管理できるものとする。
また、サイネージ CMS にて管理されている情報についても一元管理するものとする。

3.2 基本機能

No.	機 能	内 容
1	クラウド基盤	・インフラ 水害、地震、航空機リスクの低い地域に立地し、独自の電源設備、空調設備を備えた制震構造の施設であること 自然災害等のリスクに備え国内2ヵ所以上のデータセンターを有し、センターが被災した際、即時切り替え対応ができること ・認証 ISO 27001 (ISMS)、ISO 20000 (ITSMS)、SOC1を取得していること
2	管理端末	・特定のアプリケーションをインストールすることなく管理できること ・インターネットへ接続可能な端末であれば、Webブラウザを用いて制限なく管理できること ・専用のPCが必要ないこと
3	表示端末	・横置きディスプレイ、縦置きディスプレイ、マルチディスプレイ、LEDディスプレイ、プロジェクター等の表示装置へ放映が可能なこと
4	タッチディスプレイ対応	・タッチパネルディスプレイに対して、タッチ操作にて画面切り替え等ができること ・多言語対応コンテンツを簡易に制作できる機能を有していること ・多言語対応したコンテンツをタッチ操作にて言語切り替えができること ・特別なアプリケーションをインストールすることなく、タッチパネル用コンテンツの制作ができること ・通常のサイネージ利用から簡単にタッチコンテンツ利用に切り替えが可能なこと ・タッチコンテンツと通常のサイネージを組み合わせ表示可能なこと
5	コンテンツ登録機能	・放映したいコンテンツの登録機能 [対応必須コンテンツフォーマット] 静止画:JPG.JPEG.PNG.GIF 動画:MP4/FLV.AVI.WMV.FLV.MPG.MPEG.MOV 音声:MP3.WAV.WMA. ならびにPPT/PPTXへ対応のこと ・CMS連携したデザインフレームコンテンツにおいてもサイネージシステムで登録できるフォーマットであること ・コンテンツ制作機能と連携できること
6	コンテンツ制作機能	・一画面に静止画・動画・テロップを自由に10以上の分割配置ができること ・複数の動画を一画面に設定できること ・コンテンツの制作サービス(有料)委託を受けられること ・各種用途に合わせたテンプレートが500種類以上用意されていること
7	タッチコンテンツ制作機能	・タッチパネル用のコンテンツが制作できること ・複数のページを作成し、それぞれのページへ自由に遷移できること ・タッチエリアを指定して、ページ遷移ができること ・タッチコンテンツの作成ページは総数400画面までが制作できること

8	コンテンツ管理機能	・フォルダ、リストに分類することができる ・コンテンツに権限の設定ができる ・フォルダー間の移動、コピーができる ・コンテンツの回転ができる ・コンテンツをバックし、ひとつのコンテンツとして利用できる機能を有していること
9	スケジュール作成機能	・STBのグループ単位又はSTB単位で放映番組スケジュールを作成できること ・複数コンテンツを繰り返し再生できること ・分単位でスケジュールが設定できること ・曜日毎にスケジュールが設定できること ・複数のコンテンツをひとつのコンテンツとして取り扱いできること
10	スケジュール管理機能	・STB毎に個別のスケジュールが設定できること ・時間帯別にスケジュール管理できること ・STB毎の一覧が確認できること ・STB毎にスケジュールが管理できること ・スケジュールがコピーできること ・スケジュール内にある各コンテンツの再生条件設定変更が容易にできること
11	配信機能	・予約配信(配信する時間を指定)ができること ・割込み配信(通常の予約配信に即時割込み)ができること ・各種ログ(エラー、システム、放映)を取得できること ・配信失敗時に再配信できること ・スケジュール設定忘れやネットワークが遮断された場合、代替えコンテンツを表示する機能を有していること ・各STBへの配信状況を管理できること ・FHD、4Kの素材に対応できること ・コンテンツ更新時、STBそれぞれ平行して同時にダウンロードができること ・コンテンツのダウンロードが停止した場合、自動で途中からダウンロードを再開できること ・1か月分のコンテンツを時間指定で先行ダウンロードができること
12	稼動監視機能	・STB監視(死活監視、メモリ使用率・リソース監視) ・無線LANの電波強度が監視できること ・プロセス監視(死活監視、自動復旧) ※プロセス異常終了時の自動復旧できること (Wi-Fiレベル、アプリレベル、OSレベルで可能なこと) ・ログ(アプリログ、放映ログ)が取れること ・STB毎にダウンロードの状態がわかること ・無線ネットワークを自動で再起動ができること
13	ログ管理機能	・STB別放映ログ、STB別システムログ等必要なログが取れること ・コンテンツ毎の放映ログ ・タッチコンテンツのタッチログがとれること
14	アップデート管理機能	・STBファームアップデートをグループ単位に行なえること ※個別更新も可能とすること ・STBのアプリケーションのアップデートがグループ単位に行なえること ※個別更新も可能とすること

No.	機 能	内 容
15	ユーザー管理	・ユーザーに権限を分けた運用が可能なこと ・ユーザーの作成および権限レベルの設定ができること ・ユーザーグループの作成および権限レベルの設定ができること
16	遠隔制御	・管理用パソコンから遠隔で放映端末制御(再起動)が可能なこと ※スケジュール可 ・即時再起動が設定できること ・再起動する曜日と時間を指定することができること
17	緊急情報	・災害発生時、Lアラートからの情報を自動配信する仕組みがあること。 ・災害発生時に通常放映コンテンツに割り込んで特定の端末からの情報発信がオプションで可能なこと。 ・自然災害情報を自動配信する仕組みがあること。 ・災害レベル、発災地点情報より自動で全画面表示、テロップ表示等を自動切換えでできること。 ・被災地域だけでなく近隣の広域情報を対象として配信ができること
18	防災情報	・日常の機能として、防災啓蒙のための防災コンテンツ(自然災害別)配信ができること<調達予定>
19	外部情報配信	・来場者サービス向上のためニュース、天気予報、くつろぎコンテンツ等の外部コンテンツが自動で配信できること ・通常コンテンツと合わせてスケジュールが設定できること
20	Webコンテンツ表示	・URLを設定することで、Webコンテンツが表示されること ・通常コンテンツと合わせてスケジュール設定ができること
21	操作問い合わせ機能	・基本の操作教育メニューが用意されていること(有料) ・操作の問い合わせを無料で受け付けるコールセンターを有していること ・自然災害等のリスクに備え国内2ヵ所以上のコールセンターを配置して切替運用ができること

3.3 CMS 機能

No.	機 能	内 容
1	施設情報の一元管理	・施設が利用している施設予約管理システムの情報が連携され表示できること
2	ユーザー認証機能	・ログイン時にIDとパスワードでユーザーの認証をおこなうこと ・管理ユーザーを作成できる(特定情報のみ作成・編集・削除可能)こと ・ユーザーごとに権限設定が可能で適切なアクセス制御ができること
3	アカウント登録機能	・ユーザー種別:サービス管理者/ユーザー管理者/ユーザー ・登録 / 編集 / 削除 / 権限設定 /
4	セキュリティ機能	・配信する情報を不正アクセスから保護するため、コンテンツ更新を目的とした管理用パソコンからクラウドサーバへのアクセスはユーザー認証と併せて、発信元IPアドレスによるアクセス制御を行えること ・パソコンからクラウドサービスの間の通信は暗号化されていること

3.4 その他機能

No.	機 能	内 容
1	コンテンツ放映機能	・スケジュールどおりに蓄積されたコンテンツの放映を行なえること ・安定再生のためにSTBへはmp4とjpeg、pngで再生されること ・4K動画コンテンツを放映できること
2	ログ管理機能	・プレイログ・システムログ・タッチコンテンツの操作ログ・ハードウェアリソース状態を自動で定期的にサーバーへアップロードできること
3	サーバー・STB間通信	・認証機能を備えていること ・サーバー側からSTBの監視できること ・STBの通信記録を取得できること ・サーバーとSTB間の通信が暗号化されていること
	STB対応ネットワーク	・有線LAN、無線LAN(2.4GHZ、5GHZ)に対応していること ・RADIUS認証に対応していること ・無線ネットワークを自動で再起動ができること
4	オートセットアップ機能	・STBは出荷時にキッティングされていて、現地ではネットワーク接続のみで動作すること ・STBは現地にて事前に与えられたライセンスキーの入力によりアクティベーションできること
5	帯域制限機能	・ネットワーク負荷分散のために、コンテンツダウンロード時間をSTB毎に指定できること
	STB自動アップデート	・STBのファームウェア、アプリケーションが自動でアップデートできること
	STBサイズ	・STBは小型軽量であること(240グラム以内)
	バックアップ機能	・ネットワークトラブル等でサーバーにアクセスできない場合においても、すでにダウンロードされているスケジュール、コンテンツは放映が継続されること ・ネットワークトラブル等でスケジュールされたコンテンツが放映できない場合、事前に設定したバックアップコンテンツに変更し表示できること
	省エネルギー	・消費電力が18W以下であること
	Web コンテンツ表示機能	Webコンテンツを表示できること HTML5、JavaScriptに対応していること